

2023 年度事業報告

1. 会議

定時社員総会	3月26日
臨時社員総会	11月16日
総会	11月18日
理事会	3月26日, 7月8日, 10月29日
常任理事会	3月6日、3月10日, 6月19日、6月30日, 10月9日

2. 学術集会 第70回学術集会：11月16日～11月19日（長崎）

3. 刊行物 機関紙：日本臨床検査医学会誌 第71巻1-12号、Supplement：第71巻補冊 英文誌：Laboratory Medicine International 誌 第2巻1-3号

4. 臨床検査専門医（機構・学会）、管理医 認定

臨床検査専門医認定試験	8月6日（帝京大学）
臨床検査専門医・管理医更新	1月1日
臨床検査管理医講習・認定試験	8月6日（帝京大学）

5. 会員数

	2021年度 (12/31 会費納入済数)	2022年度 (12/31 会費納入者数)	2023年度 (12/31 現在会費納入者数)
総会員数	3,223名 (2,579名)	3,096名 (2,764名)	3051名 (2,336名)
正会員	3,006名 (2,373名)	2,862名 (2,546名)	2820名 (2,196名)
(評議員)	(200名) (200名)	(185名) (181名)	(184名) (181名)
学生会員	59名 (57名)	66名 (62名)	68名 (63名)
名誉会員	36名	41名	42名
功労会員	122名 (113名)	127名 (115名)	121名 (81名)
賛助会員	36社 (36社)	36社 (36社)	37社 (37社)

※各年度12月31日の会員数

6. 関連団体（事業）

- 1) 日本臨床検査専門医会 {第2回年次大会（東京）：6月23日（金）～24日（土）}
- 2) 日本臨床検査同学院（臨床検査士資格認定試験：二級・緊急・一級、遺伝子分析科学認定士資格認定試験：初級・一級、POCT測定士認定試験）
- 3) 日本臨床化学会 {第63回年次学術集会（東京）：10月27日（金）～29日（日）}
- 4) 日本医療検査科学会 {第55回大会（横浜）10月6日（金）～8日（日）}
- 5) 世界病理学・臨床検査医学会連合会（WASPaLM）：第32回（サンパウロ）9月5日～：8日
- 6) アジア臨床病理・臨床検査医学（ASCPaLM）：理事会；2023年10月20日
- 7) 日本臨床検査標準協議会, 8) 認定検査技師機構, 9) 日本専門医機構
- 10) 日本臨床検査振興協議会, 11) 各種制度審議会・協議会

事業報告書

2023年1月1日から2023年12月31日まで

I 事業の概況

1 事業の経過及び実績

(1) 社会公共性への取り組み

日本臨床検査医学会は、一般社団法人として、積極的に社会公共性を意識した活動を展開しています。過去4年近くにわたり、日常生活に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の制限が緩和され、医療業務も以前の活動に近づいていますが、「臨床検査」の重要性が減じることは全くなく、社会的認知度が高まった状態は今後も継続すると思われれます。また、遺伝子・ゲノム関連検査の開発・発展は著しく、今後2017年に成立し、2018年12月1日から施行された改正医療法では、このような状況に応じ、特に検体検査の精度担保の必要性が明確化されております。

以上の状況に鑑み、本学会は、学術集会や学会誌等における臨床検査の社会的役割についての啓発活動の継続、標準化活動の推進、各種ガイドライン・指針の策定、臨床検査の臨床的価値・社会的有用性に関する客観的データの提示と提言などを通じて、臨床検査の視点から日本の医療の質向上に寄与しています。

また、日本専門医機構により19ある基本領域のひとつと定義されている「臨床検査」領域では、2018年度から基本領域臨床検査専門研修の実施を開始するとともに、学会認定の専門医試験も継続中です。今年は両者合わせて14名の臨床検査専門医が誕生しております。有能な臨床検査専門医の社会ニーズは益々高まると考えられ、継続的な育成を行ってまいります。

(2) 学会活動

学会の事業の一環として、①2023年11月16日～11月19日に長崎市で第70回学術集会を開催、②機関誌として、国内誌「日本臨床検査医学会誌」（第71巻）を年12回刊行すると共に、昨年より発行している、国際誌「Laboratory Medicine International」の第2巻を発行しております（年4号予定）。③臨床検査に関連する各種委員会の開催、④「臨床検査専門医」、「臨床検査管理医」試験実施、⑤臨床検査士及び細胞検査士に係る資格認定、などを行いました。前年度に引き続き、「新型コロナウイルスに関するアドホック委員会」、「地域の臨床検査に関するアドホック委員会」は活動を継続しております。また、活動範囲の拡大に伴い、「臨床検査点数委員会」は「保険診療委員会」に名称を変更しております。ガイドライン作成委員会では今回で8回目の改訂となる「臨床検査のガイドライン JSLM2024」の発刊に向け、活動を継続しています。そのほか、研究の奨励・研究業績の表彰、関係学術団体との連絡・協力、国際的な研究協力の推進など、幅広い活動を展開しております。

(3) 各種委員会活動（別紙＜報告事項：第1号議案-2＞）

2 対処すべき課題

(1) 学会活動の活性化

理事長挨拶で謳われているように、「本学会は、すべての医学・医療分野に関わる臨床検査を学術的な立場から先導していく役割を担っています」。人々の健康増進と疾病予防、疾病の早期発見・治療に有用な臨床検査の開発、等に供する臨床検査医学の研究成果を得るために、学会活動を更に活性化する必要があると考えています。学術集会の開催、機関誌の発刊、各種委員会の活動、等はこの具体的な対応です。さらに、学会賞や学術推進プロジェクトによる会員の研究活動の推進は、次世代の臨床検査医学の研究を担う若手研究者の育成の一環です。

また、臨床検査に関する社会への啓発活動として、保険診療としての臨床検査が適正に評価されるための活動も重要と考えており、日本臨床衛生検査技師会をはじめとする関連団体や他学会とも有機的に連携をとりながら継続的に議論しております。

(2) 社会が求める臨床検査専門医・臨床検査管理医の養成

社会に役立つ質の高い臨床検査専門医・臨床検査管理医数の増加が必須です。検体検査管理加算、国際標準検査管理加算などの診療報酬上の評価、臨床検査の品質・精度の確保に係る改正医療法で求められる業務、医療機関の安全管理と標準化に関わる報告業務など、臨床検査を担う部門のあるべき姿は学会発行のガイドラインに示されています。これを的確に管理する能力をもった臨床検査専門医・臨床検査管理医の養成は本学会の責務です。臨床検査専門医をめざす多くの専攻医を確保し育成する努力が求められます。臨床検査管理医については、教育講習と認定試験の改善について検討を続けております。また、前年度に発足した「地域医療における臨床検査に関するアドホック委員会」の活動も継続して参ります。さらに、新型コロナウイルス感染のパンデミックにより社会的に需要が急速に増大した遺伝子関連検査について、専門的知識や技能を備えた臨床検査医の育成も急務となっています。

(3) 医療 DX 推進とゲノム医療実装への対応

概ね 2017 年以降に、官民を含む関連団体より人工知能 (AI) やビッグデータの医療活用に関する議論が活発となり、直近数年で実運用が急速に進んでいます。これと、時を同じくして国内でも、特に腫瘍関連検査における多種類のゲノム医療・診断の実装が現実のものとなってきました。この環境下で臨床検査情報が非常に重要な位置を占めるはずですが、画像診断や手術支援など他分野と比較して対応の遅れがあることは否めません。標準検査コードや、検査精度管理運用の強化を通じて、学会として研究・実診療の両面において、検査データの高度な活用を推進する体制を後押しする必要があります。

3 設備投資の状況

当期における資産の取得状況はありません。

II 法人の概況

1 主な事業内容

本法人は、臨床検査医学（臨床病理学）に関する学理及びその応用についての研究発表、知識の交換、会員相互及び内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、臨床検査医学（臨床病理学）の進歩・普及を図り、もってわが国の学術の発展に寄与することを目的として次条の事業を行う。

- ① 総会、講演会、学術集会の開催
- ② 学会機関誌、学術図書及びその他の刊行物の発行
- ③ 学会認定臨床検査専門医、名誉臨床検査専門医、臨床検査管理医の資格認定
- ④ 臨床検査士およびその他の臨床検査に係わる資格認定
- ⑤ 世界病理・臨床検査医学会連合〔World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM)〕、アジア臨床検査医学会連合〔Asian Societies of Clinical Pathology and Laboratory Medicine (ASCPaLM)〕ほか内外の関連諸学術団体・協会との連絡並びに協力活動
- ⑥ その他本法人の目的を達成するために必要な事業

2 社員（2023 年 12 月 31 日現在）：184 名

3 役員（2023 年 12 月 31 日現在） 23 名

理事	大西 宏明	(理事長)
	田部 陽子	(副理事長)
	㇔谷 直人	
	古川 泰司	
	木村 聡	
	日高 洋	
	松下 一之	
	満田 年宏	

森兼 啓太
吉田 博
井上 克枝
下 正宗
堀田多恵子
矢富 裕
高橋 聡
志村 浩己
東田 修二
伊藤 弘康
山崎 正晴
大澤 春彦
柳原 克紀
古田 耕
諏訪部 章

監事

- 4 決算期後に生じた法人の状況に関する重要な事実
記載すべき事項は、ありません。

2023 年度 日本臨床検査医学会 各種委員会 活動報告

1) 学術推進化委員会（委員長：浅井さとみ、担当理事：矢富 裕）

- ①2023 年度 学術推進プロジェクト研究として 15 課題の応募があり、3 課題を採択した。
- ②2022 年度採用 学術推進プロジェクト研究課題の中間報告 2 課題を受理した。
- ③2024 年 1 月「2024 年度学術推進プロジェクト研究課題応募開始のお知らせ」を全会員に向けてメール配信した。
- ④2021 年度学術推進プロジェクト研究課題採択者 3 名より最終報告書および会計報告書が提出された。2023 年度末までに論文執筆予定である。

2) 編集委員会（委員長：吉田 博、担当理事：谷直人）

- ①2022 年度発行の本学会機関誌（国内誌）に出版された論文を対象に優秀論文賞の審査を行い、1 名の受賞者候補者（次点候補者 2 名）を選考した。
- ②Laboratory Medicine International (LMI) の 2 巻 1 号（6 月）、2 号（9 月）と 3 号（12 月）を発刊した。3 巻第 1 号は 2024 年 3 月に発刊予定である。
- ③英文誌論文投稿システム ScholarOne Manuscripts の調整を行い稼働させた。現在英語論文は本システムを通してご投稿いただいている。なお、稼働前に投稿された英語論文については国内誌と同じ方式で審査を行っている。
- ④LMI 専用の WEB ページを作成中である。
- ⑤投稿論文の論文審査について検討を行った。
- ⑥日本臨床検査医学会誌のトピックスの立案を行った。
- ⑦第 70 回の学術集會に委員会企画として国際委員会と合同でシンポジウムを行なった
- ⑧ScholarOne Manuscripts の来年度契約と国内誌の J-STAGE 搭載について検討し予算化された。
- ⑨第 12 回日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）総会・第 12 回シンポジウムが 2024 年 2 月 6 日に日本医師会館大講堂で現地開催された。テーマは「A 1 と医学雑誌編集」で、下澤副委員長が出席した。

3) 教育委員会（委員長 植木重治、担当理事 木村 聡）

- ①【共催】第 7 回医学生・研修医のための臨床検査ハンズオンセミナー（領域講習 2 単位）
主催：ワークライフバランス委員会、2023 年 9 月 10 日、講師：松本剛、ファシリテーター：中村文彦、上岡樹生、神田晃、山口宗一、金子誠、松下弘道、常川勝彦、オブザーバー：橋口照人
- ②【第 70 回日本臨床検査医学会学術集會 教育委員会企画】（領域講習各 1 単位）
11 月 18、19 日（予定）
RCPC1 司会：松本剛 出題：常川 勝彦、RCPC2 司会：中村文彦 出題：上岡樹生
Catch Up セミナー
セミナー1 司会：神田晃 演者：植木重治、セミナー2 司会：松下弘道 演者：志村浩己
セミナー3 司会：山口宗一 演者：涌井昌俊
- ③【e-learning】藤崎知園子：HIV 感染症の検査

4) 保険診療委員会（委員長：松下一之、担当理事：古川泰司）

- ①令和 6 年度医療技術評価報告書を提出。
- ②血小板凝集能が 50 点から 450 点の増点となった。日本臨床検査専門医会と合同提案。
- ③遊離メタネフリン・遊離ノルメタネフリン分画 450 点への増点（改正前 320 点）日本臨床検査医学会からの提案。
- ④医療 DX に関連して、HL7-FHIR に必要な JIAC10 の検査室における導入について。

5) 学会賞委員会（委員長：飯沼由嗣、担当理事：井上克枝）

- ①2023 年 8 月 21 日（月）に Zoom 開催された学会賞選考委員会で受賞候補者を選出し理事会に報告、理事会にて受賞者が決定された。受賞者は下記の通りである。学術賞（藤原亨氏）、検査・技術賞（該当者無し）、若手研究者奨励賞（松尾英将氏）、優秀論文賞（石黒旭代氏）。

②募集要項について、応募者に不利益とならないように、よりわかりやすく修正することとした。

6) 標準化委員会（委員長：三井田孝、担当理事：日高 洋）

①C ペプチド標準化：浜松医科大学倫理委員会で計画書が承認され、2024 年中に実施予定。

②Lp(a)のハーモナイゼーションおよび標準化：

6 社の試薬を CDC・IFCC と連携して評価し、論文執筆中。より多くの試薬を比較する研究計画が浜松医科大学倫理委員会で承認され、2024 年中に実施予定。

③コレステロール基準測定法の変更：Abell-Kendall 法から IDMS 法への移行のスケジュールを臨薬協と協議中。関連学会と連携して進める予定。

7) 精度管理委員会（委員長：小池由佳子、担当理事：堀田多恵子）

①2023 年度 CAP 国際臨床検査成績評価プログラム報告：2022 年度比較 21 施設減の 163 施設が参加した。参加中止施設の多くが新型コロナウイルス関連検査の参加施設であり、主な理由は昨年同様、費用の観点から参加しやすい他団体のサーベイへのシフトであった。

②第 1 回精度管理委員会（9 月 26 日に開催）報告：以前より問題視されている CAP サーベイ評価における日米間の乖離に対処するため、国内集計を認めてもらいたいという提言を JSLM 精度管理委員会として米国 CAP に行うことが議論され決定した。内容については今後検討していく予定である。

③臨床検査室グローバルニュース報告：季刊誌として年 4 回ペースで発行している。発行部数は毎号約 10000 部で大きな増減はない。引き続き記事の確認、英文翻訳の校閲を行っていく予定である。

8) EBLM 委員会（委員長：佐藤正一、担当理事：満田年宏、担当理事代理：田部陽子）

①第 70 回日本臨床検査医学会学術集会にて委員会企画講演、テーマ：「臨床検査と AI の融合」、座長：片岡浩巳、佐藤正一、演者：佐藤正一（臨床検査領域における AI の基礎から臨床応用と課題）、佐藤雅哉（AI による臨床検査データの統合）、濱田和希（呼吸器診療を支援する医療 AI 技術の開発）。

②3 回の会議（Web 会議を含む）を行い、教育講演の内容について審議を行った。また、ハンズオンセミナーの計画についても検討を行った。

③EBLM 委員会のウェブサイトにおいて委員会活動記録の更新を実施した。

9) 倫理委員会（委員長：木村孝穂、担当理事：古川泰司）

①2023 年 5 月 教育機関からの「医療機関で検査の終了している残余検体（臓器、組織等）を教育目的で利用するために譲渡を受ける際の留意条項」に関する問い合わせに対応した。

②2023 年 6 月 一般社団法人日本臨床検査薬協会から企業での臨床検体の取扱いにおいて留意すべき事項に関する講演の依頼を受け委員長が対応した。

③一般社団法人 日本臨床検査薬協会（コンプライアンス委員会）主催の「2023 年度 コンプライアンス関連研修会」において委員長が個人情報保護に関する教育講演を行った。

④第 70 回日本臨床検査医学会学術集会にて講演会「遺伝子検査・遺伝子診療における臨床検査の留意事項」を企画し開催した。

⑤2023 年 12 月「診療上必要な検査が終了した既存試料（残余検査）を収集して検査試薬の検討を行い、学会および論文等での発表が考慮される研究を計画する際のインフォームドコンセント（IC）」に関する問い合わせに対応した。

⑥2024 年 1 月 5 日「臨床検査を終了した既存試料（残余検体）の研究、業務、教育のための使用について－日本臨床検査医学会の見解－2024 年改訂」（2021 年に改訂したものを改訂）を本学会 HP で公開した。

10) 利益相反委員会（委員長：山崎正晴、担当理事：古川泰司）

①学術集会における海外からの講演者に対する COI 開示依頼について

第 70 回学術集会運営事務局から海外からの講演者用の COI 開示スライドについて照会があり、

利益相反委員会で審議の上、同スライドを作成して、2023年11月8日に運営事務局に送付した。また、従来、使用されていた海外からの講演者用の英文のCOI自己申告書の内容を確認したところ、現行のCOI細則と整合しない点があり、利益相反委員会で修正・追記した暫定の改訂版を作成し、11月8日に運営事務局に提供した。

11) ガイドライン作成委員会（委員長：田中靖人、担当理事：吉田 博）

- ①昨年度のガイドライン作成委員会で決定されたガイドライン執筆者に依頼をかけ、一部は現在まだ執筆中であるが、多くは原稿が入稿され、査読チェックの段階にある。
- ②今年度は計4件の転載許諾依頼があり、内容を確認のうえ慎重に検討し許諾した。
- ③2023年2月開催された日本医療機能評価機構による【Minds】第25回診療ガイドライン作成に関する意見交換会の動画サイトを委員会で共有した。
- ④2023年11月19日第2回目のガイドライン作成委員会を開催した。JSLM2024 臨床検査のガイドラインの執筆状況と今後の予定が確認された。

12) 検査項目コード委員会（委員長：内海 健、担当理事：松下一之）

- ①JLAC10コードについて、臨床検査項目として、分析物コード、測定法コードの新規登録、変更申請削除を行った。
- ②「JLACコード付番委員会」で新規体外診断薬を中心にしてJLACコードの付番を行っている2023年半年では、101件の付番を行った。
- ③日本臨床検査医学会ホームページ上で情報を公開し随時更新している
- ④検査項目コード委員会を2023年8月25日、日本臨床検査医学会事務局にて開催した。JLACセンターの開設、JLAC11の公開について討議した。JLACセンターの設立を早期に図ること、JLAC11の早期公開を図ることが了承された。
- ⑤2024年2月13日・JLAC10コード表について更新した。・JLAC11コード表について公開した。

13) 広報委員会（委員長：木村 聡、担当理事：メ谷直人）

- ①パシフィコ横浜で開催のJACLaS EXPO 2023で臨床検査医学会のブースを設営。大会期間中、りんしょう犬さんによる臨床検査業務の紹介や、全国から応募のあった検査室スタッフの写真を掲示した。2024年の臨床検査専門医会年次集会ポスターも掲示し、チラシ配布を行った。
- ②11月の日本臨床検査医学会年次学術集会（長崎）で広報委員会を開催した
 - ・ホームページに臨床検査専門医Q&Aなどの掲載を討議、近日掲載予定
 - ・今後はより頻回のアップデートと各種ツールによる情報提供が望まれる。

14) 臨床検査室医療評価委員会（委員長：松下弘道、担当理事：堀田多恵子）

- ①第70回日本臨床検査医学会学術集会にて委員会企画「臨床検査室における現在の課題」を開催した。
- ②日本医学会連合門田班（臨床内科グループ）（以下門田班）から調査研究の依頼があり、2023年11～12月にアンケート調査「ポストパンデミックの臨床検査体制」を行った。また、その結果について2024年3月19日に開催された門田班の研究結果報告会で報告した。

15) 遺伝子委員会（委員長：松井啓隆、担当理事：松下一之）

- ①2023年度学術集会において、委員会企画「網羅的遺伝子解析による臨床検査の現在とこれから」を開催した。がん遺伝子パネル検査や多遺伝子パネル検査の最新の情報を提供する。
- ②2023年度学術集会において、病理学会との共催シンポジウム「LDT・RUOと保険診療」に参画し、LDTの位置づけや課題を共有した。
- ③学会によるゲノム関連検査教育ワーキンググループにメンバーとして参画し、遺伝子検査領域の教育コンテンツ拡充のため、カリキュラム作成に関与した。
- ④「国内におけるLaboratory Development Test (LDT)評価ワーキンググループ」にメンバーとして参画し、国内におけるLDTの定義やあり方に関する意見交換を行った。
- ⑤その他、委員会委員より寄せられたセミナー等の案内を学会会員に周知した。

16) 国際委員会 (委員長：下澤達雄、担当理事：井上 克枝)

- ①2023 年度国際学会奨励賞受賞候補者を選考し松田将門、神戸歩の 2 氏を受賞者として推薦した。
- ②World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM) 2023 (Sep 5-8, 2023、ブラジル) における JSLM セッション The health check up system of Japan and the role of clinical pathologists にて、右田王介先生 (Use of genome and genetic Information for preventive medicine in Japan)、村上正巳先生 (Dock and Preventive Medical Care: An overview of the health check up system in Japan)、下澤達雄国際委員会委員長(Never let a good crisis go to waste. Winston Churchill, How we fight against NCD prevention in Japan) が講演を行った。
- ③第 70 回日本臨床検査医学会委員会企画として編集委員会と合同で「学会誌の英文版の発刊と学会国際活動」を企画した。
- ④10 月 20 日韓国で開催の LMCE 2023 のアジアセッション The Supply Side of Laboratory Medicine に日本より古川理事をご推薦した。
- ⑤2024 年度 ASCPaLM 学術集會に"Blood Supply and Availability" のセッション候補者を選考中。

17) 医療安全委員会 (委員長：三枝 淳、担当理事：森兼啓太)

- ①第 12 回特別例会 (2023 年 4 月 22 日) において、シンポジウム「タスクシフト/シェアと医療安全」を企画・実施した。演者：森兼啓太担当理事、井本寛子先生、益田泰蔵先生、座長：森兼啓太担当理事、三枝淳委員長
- ②第 70 回学術集會におけるシンポジウム (委員会企画)「医療情報セキュリティについて我々が知っておくべきこと」を企画・実施した。演者：春名能通先生、吉岡亮平先生、藤川敏行先生、座長：森兼啓太担当理事、三枝淳委員長
- ③第 70 回学術集會会期中に医療安全委員会会議を現地開催し、第 71 回学術集會時委員会企画について検討し、パニック値に関する内容などが候補に上がった。今後企画を進める。

18) 会則改定委員会 (委員長：田部陽子、担当理事：谷直人)

- ①一般社団法人 日本臨床検査医学会 支部規約に関する細則の改定案を作成し、2023 年度第二回理事会において承認された。
- ②一般社団法人 日本臨床検査医学会 支部規約案を作成し、各支部に本案に基づいた規約作成を依頼し、すべての支部から規約が提出された。
- ③一般社団法人 日本臨床検査医学会 支部規約を学会 HP に掲載した。

19) チーム医療委員会 (委員長：小谷和彦、担当理事：田部陽子)

- ①パニック値の検討；パニック値の運用に関する提言 (公開中) への照会対応。パニック値の全国調査の集計と報告。
- ②チーム医療における臨床検査とその専門家の役割に関する検討の継続。

20) 学術集會企画委員会 (委員長：柳原克紀、担当理事：日高 洋)

- ① 第 70 回学術集會期間中の 2023 年 11 月 17 日 (金) に委員会を開催した。
- ② 第 71 回学術集會を 2024 年 11 月 28 日 (木) ~12 月 1 日 (日) の日程で大阪市 (会長：日野雅之) にて現地&オンデマンド配信で開催予定。
- ③ 第 72 回学術集會は 2025 年 8 月 28 日 (木) ~31 日 (日) の日程で千葉市 (会長：大西 宏明) にて現地&オンデマンド配信で開催予定。
- ④第 73 回学術集會の集會長については吉田 博先生 (慈恵医大) に決定した。

21) ワークライフバランス委員会 (委員長：西川真子、担当理事：田部陽子)

- ①臨床検査専門医取得に関するサポートセンターで、10 件の問い合わせに対応した。相談件数は例

年より少なめだった。(担当：千葉泰彦)

- ②第7回 ハンズオンセミナーを Web 開催した(9月10日(日)、共催：近畿支部、教育委員会、日本臨床検査専門医会)。(担当：松本剛、眞鍋明広、鯉渕晴美、赤坂和美、原田健右、上菘義典、大山陽子、増田亜希子、西川真子)
- ③第70回学術集会でシンポジウム(臨床検査医としてどう働き続けるか)を実施した。(担当：鯉渕晴美、千葉泰彦、尾崎敬、赤坂和美)。

22) 統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会(委員長：田部陽子、担当理事：田部陽子)

- ①第12回日本臨床検査医学会特別例会にて「シンポジウム1・ビッグデータとしての臨床検査情報」を企画・実施。(4月22日)
- ②標準企画 HL7 FHIR に関する日本医療情報学会 NeXEHRs 課題研究会(<https://nexehrs.jp/>)に湯地副委員長がオブザーバー参加。
- ③生活習慣病関連9臨床団体拡大会議に湯地副委員長がオブザーバー参加予定(10月19日)。
- ④2023年度第1回委員会を第70回学術集會会期中に開催(11月17日)。
- ⑤第70回日本臨床検査医学会学術集會にて委員会企画「臨床検査と人工知能を利用した医療機器プログラム開発と医療機器認証」を企画・実施(11月18日)。

23) 新型コロナウイルスに関するアドホック委員会(委員長：柳原克紀)

- ①COVID-19 に対するこれまでの対応と、今後に向けた備えについての総括準備を行なっている。

24) 地域医療における臨床検査に関するアドホック委員会報告(委員長：小谷和彦、担当理事：森兼啓太)

- ①臨床検査専門医の地理的分布や施設種、および臨床検査分野の地域医療貢献に関する検討の継続。

25) ICD-11 委員会(委員長：末岡栄三朗、担当理事：吉田 博)

- ①ICD11 和訳タスクフォース委員会の活動を引き継ぎつつ ICD-11 委員会と改称した。
- ②厚生労働省から依頼のあった ICD-11 改正内容および ICD-11 for MMS の追加・変更分の和訳の確認作業について回答を行った。
- ③細則に追記する委員会規定案を作成し、会則改定委員会に提出した。
- ④第72回厚生科学審議会感染症部会において、「サル痘」の名称を「エムボックス」に変更する方針が了承された。

26) 受験・更新資格審査委員会(委員長：三宅一徳)

- ①2023年度臨床検査専門医、臨床検査管理医の受験希望者の受験資格について審査を行い、臨床検査専門医・管理医審議会に報告した。

27) 試験委員会(委員長：山田俊幸)

- ①第3回日本専門医機構認定臨床検査専門医認定試験ならびに第40回日本臨床検査医学会臨床検査専門医認定試験を8月6日帝京大学で実施した。
前者は8名受験し合格者8名、後者は8名受験し合格者は6名であった。

28) Subspecialty検討委員会(委員長：吉田 博)

- ①2023年7月21日に日本専門医機構サブスペシヤルティ領域専門医制度についての説明・意見交換会、8月29日に第1回機構認定サブスペシヤルティ領域懇談会が開催され、委員長、大西理事長の他関係する常任理事等が出席した。
- ②機構の細則等の変更が検討され、制度運営にあたっては専門医機構、基本領域連絡協議会、サブスペシヤルティ領域専門医検討委員会3者の役割分担の明確化、専門医制度の全体像を定め、

3つのカテゴリーに分類した制度設計を行う（カテゴリー1：機構が指定する領域、カテゴリー2：連絡協議会が推薦し機構が承認する領域、カテゴリー3：機構が定める認定規則により基本領域連絡協議会が認定する領域）。

- ③新しいサブスペシャリティ専門医制度に関する細則の改定に関する質問・意見を受け付けがあり、基本領域連絡協議会による全体意見とともに、本学会として意見・要望書を提出した。
 - ・専攻医数の少ない基本領域学会でも、他の基本領域学会が設定するサブスペシャルティ専門医制度に参画できる道を残していただくこと
 - ・カテゴリー3（およびカテゴリー2）において他の学会と合同でサブスペシャルティ専門医の基本領域学会となることの是非は、規模・数などの画一的な外形基準でなく、そのサブスペシャルティ分野での本学会専門医の必要性に関する連絡協議会等の場での議論を通じてご判断いただくこと
- ④日本専門医機構による第2回サブスペシャルティ領域専門医制度についての説明・意見交換会がオンライン様式で開催され、大西理事長と吉田委員長が出席した。

29) 2022・2023年度臨床検査専門医認定試験実行委員会（委員長：古川泰司）

- ①第3回機構専門医試験、第40回臨床検査専門医認定試験は、帝京大学板橋キャンパスにて8月6日（日曜日）に1日で執り行われた。
- ②機構専門医受験者8名、学会専門医受験者8名の申込があった。
- ③両試験とも欠席者はなく、16名全員が受験した。
- ④委員会判定会議では、機構専門医受験8名中合格8名、学会専門医受験8名中合格6名と判定された。

30) 2022・2023年度臨床検査管理医認定試験実行委員会（委員長：山田俊幸）

- ①第15回臨床検査管理医講習・認定試験を、8月6日（日）に実施し、29名受験し29名が合格となった。

31) 日本専門医機構認定臨床検査専門医研修プログラム認定委員会（委員長：山田俊幸）

- ①2024年度基幹施設の研修プログラムの一次審査認定を行い、日本専門医機構に二次審査依頼をした。更新申請が2施設（5年目にあたる施設）、新規申請が2施設、変更申請が25施設であった。

32) 日本専門医機構認定臨床検査専門医更新資格審査委員会（委員長：山田俊幸）

- ①2024年1月1日付の臨床検査専門医更新の行い88名を一次審査認定し、日本専門医機構に二次審査依頼をした。更新単位となる共通講習、領域講習の審査認定を行った。